

中日言語対照研究論叢

汉日语言对比研究论丛
(第2辑)



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

汉日语言对比研究论丛

第2辑

汉日对比语言学研究(协作)会
黑龙江大学东语学院
合 编



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

汉日语言对比研究论丛·第2辑/汉日对比语言学研究(协作)会,
黑龙江大学东语学院合编. —北京:北京大学出版社,2011.8

ISBN 978-7-301-19242-9

I. ①汉… II. ①汉…②黑… III. ①汉语一对比研究—日语—文集
IV. ①H1-53②H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 140830 号

书 名: 汉日语言对比研究论丛·第2辑

著作责任者: 汉日对比语言学研究(协作)会 黑龙江大学东语学院 合编
责任编辑: 兰 婷

标准书号: ISBN 978-7-301-19242-9/H·2891

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号 100871

网 址: <http://www.pup.cn>

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62767347

出版部 62754962

电子信箱: zbing@pup.pku.edu.cn

印 刷 者: 河北滦县鑫华书刊印刷厂

经 销 者: 新华书店

890 毫米×1240 毫米 A5 10.75 印张 290 千字

2011 年 8 月第 1 版 2011 年 8 月第 1 次印刷

定 价: 28.00 元

未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有,侵权必究

举报电话: (010)62752024 电子信箱: fd@pup.pku.edu.cn

《汉日语言对比研究论丛》编委会

主 编：朱京伟

本辑特邀执行主编：陈百海

副 主 编：曹大峰 张麟声

主编助理：王轶群

编 委：曹大峰 陈俊森 高 宁 揭 侠 李均洋
马燕华 沈 力 王 忻 吴大纲 许宗华
张麟声 赵 刚 赵华敏 朱京伟

日本九州外国语学院对本辑的出版给予赞助,特此鸣谢!

前 言

第三届汉日对比语言学研究(协作)会即将在杭州师范大学召开,《汉日语言对比研究论丛》(第2辑)的出版适逢其时,我们以此向本次研讨会表示祝贺。本辑论丛收录了在上一届研讨会上宣读的23篇论文。阅读这些论文,不由地想起去年研讨会的情景。

2010年8月14日—16日,第二届汉日对比语言学研究(协作)会在黑龙江大学召开。盛夏的哈尔滨凉爽宜人,承办这次研讨会的黑龙江大学东语学院,为来自四面八方的会员会友提供了舒适的会议和食宿环境。14日上午,举行了开幕式和“第二届汉日对比语言学奖(卡西欧学术奖)”的颁奖仪式。之后,日本国立国语研究所的影山太郎所长和东京大学的杨凯荣教授分别作了基调和报告;16日上午,上海外国语大学的戴宝玉教授和东京外国语大学的望月圭子教授作了大会报告。分科会历时一天半,在4个分会场中共安排了12场次的分科会,总共有100多位会员会友宣读了自己的论文。其中有来自国内47所院校的83人,和来自日本19所院校的31人。发言之后的提问时段场面热烈,大家一起营造了良好的学术氛围。

汉日对比语言学研究(协作)会成立近两年以来队伍不断壮大,登记注册的会员会友人数已从成立之初的263人,增加到现在的426人,大家分别来自中日两国的199所高等院校。今后,中国高校的日语教育必将从扩大规模转向注重质量,与之相应的则是对教师素质和科研成果的更高要求,这种大趋势为我们的汉日对比语言学研究提供了难得的发展机遇。

《汉日语言对比研究论丛》由汉日对比语言学研究(协作)会与研讨会的承办校共同编辑,由汉日对比语言学研究(协作)会学术委员

会成员组成编委会具体负责编辑工作。本论丛要求：所有的稿件都必须是在上一年研讨会上宣读过的论文，在经过作者修改之后，再自主投稿到编委会。编委会负责组织专家学者对每篇来稿进行多人制的匿名评审，并根据评审结果决定是否刊用。

我们衷心希望本学会的会员会友踊跃参加每年一度的研讨会，并期待着有更多的人把自己在会上宣读过的论文投稿到本论丛编辑部，通过大家的努力，使《汉日语言对比研究论丛》成为人人关注的学术交流平台。

《汉日语言对比研究论丛》编委会

2011年5月20日

目 录

特 约 论 文

- 日中連体修飾節の相違に関する考察…………… 楊凱榮 1
也谈意志动词和无意志动词…………… 戴宝玉 33
日本語と中国語の複合動詞の語形成…………… 望月圭子 申亜敏 46

语 法 研 究

- “动词+上+空间词”について…………… 高橋弥守彦 73
日中兩語の所有者を示す連体修飾語の現れ方…………… 加藤晴子 84
日汉主题推进及其在翻译中的应用…………… 朱 芬 96
谈汉日比较句“他的年纪比我大”和
“彼の年齢は私より上だ”…………… 平山邦彦 110
「のではないか」の機能再考…………… 张 兴 121
日本語の自動的変化事象を表す動詞について…………… 姚艳玲 134
日本語「V+テイル」文と中国語訳との比較
——「動きの最中」の意味を中心に…………… 花文勰 148
主語の意味拡張からみた日本語他動性表現
——中国語との比較を兼ねて…………… 黄春玉 161
中国語の“了、过”と対応する日本語について
——“已经”“曾经”との呼応形式を中心に…………… 张岩红 176
话语标记的“吧”及「ね」…………… 田 禾 郭光辉 192
日中兩語の非典型的受動表現について…………… 谢新平 205

词汇研究

- 日本語の「V1-疲れる」と中国語の“V1-累” …………… 杉村泰 219
- 日本汉文中双音节词训释问题
——以《日本书纪》为中心 …………… 唐 焯 229
- 中国語「不確定指示型の人称代名詞」の特徴
——日中对訳文を考察対象に …………… 楊 蕾 245
- “走”の意味について(2)
——“走车”“走人”“走棋”“走菜”などから …………… 続三義 260

教学研究

- 認知言語学から見た「切る」と“切”の対照研究
——日本語教育のために …………… 王 冲 271
- 从汉日对比的角度浅析《东文易解》为
中国学习者归纳的日语句型 …………… 鲜 明 284
- 再谈汉日语言的可比性问题 …………… 卢 涛 296
- 依頼表現形式の丁寧度に関する日中比較
——中国人日本語学習者習得状況調査 …………… 盧万才 307

其他

- 内親王・女王名に見える女・示・日について …………… 潘 蕾 318
- 编后记 …………… 330
- 《汉日语言对比研究论丛》来稿注意事项 …………… 331
- Contents …………… 333
- 附录：汉日对比语言学研究（协作）会组织机构 …………… 335

日中連体修飾節の相違に関する考察

東京大学総合文化研究科

楊凱榮

提要 本文主要探讨日汉定语从句的差异以及造成这种差异的动因。通过考察，本文首先肯定了日语与汉语相比更倾向于使用定语从句，并指出这种差异所产生的原因除了人称代词本身的特性以外，主要可以归因于日语和汉语在主语、时制、视点、名词化、有定、无定以及语气等表达方式上的差异。

关键词 定语从句 人称代词 视点 背景化 名词化

1. はじめに

本稿は主として連体修飾節における日本語と中国語の違いを考察しようとするものである。一般に、中国語と比べて日本語のほうが連体修飾の形式をとりやすいと言われている。これまで日中連体修飾節に関する研究がいくつかあり、両者にどのような違いがあるのかということも指摘されているものの、なぜそうなのか必ずしもまだ十分に解明されていない。本稿ではこれまでの研究を踏まえたうえで、なぜ、両言語にこのような傾向があり、原因はどこにあるのかを明らかにすると同時に、文法構造や認知、機能の面から説明を試みる。

2. 問題意識

連体修飾節といっても、日本語ではいわゆる「内の関係」と「外の関係」（この用語は寺村秀夫(1992)に従う）があり、また「外の関係」の中にもさまざまなレベルのものが存在すると言われ、日本語では多くの研究の蓄積がある。主なものに、寺村秀夫(1992)、益岡隆志(1994、1995、2009)、松本善子(2007)、大島資生(2010a)などがある。一方、日

中対照研究に目を転じてみれば、日本語の連体修飾節を受ける「底の名詞」（この用語も寺村秀夫(1992)に従う）はそれぞれ中国語の連体修飾においても同様に「底の名詞」として機能しうるのか、という問題がある。例えば、「内の関係」で言えば、日本語では連体修飾節を受ける「底の名詞」として機能しうるかどうか、ある種の階層関係が存在するが、同じことは中国語についても言える¹。本稿はそれについて個々のケースを逐一検討する余裕はないので、中国語と日本語の「内の関係」の成立に関する階層性は必ずしも一致しないことを指摘するのにとどめておく。例えば、次の所有格の場合、日本語では「底の名詞」として成立するが、中国語では成立しにくい。

(1) a 子供が怪我をした山田さん

b ?孩子受伤的山田

c ?受了伤的孩子的山田²

一方、「外の関係」では日本語はさまざまなレベルの名詞が「底の名詞」に転出できるが、それに対して、中国語においては「底の名詞」が補充内容を表す場合はある程度成立可能であるが³、「底の名詞」が相対性名詞の場合にはかなり制限を受ける。山田留里子(1999)はそうした問題を扱っているが、中国語についての山田留里子(上掲)の成立可否の判断はややきびしいと思われる。例えば、山田留里子(1999)では「本を売ったお金」の中国語の訳として“卖书的钱”は言えないとしているが、筆者は成立すると思う。しかし、全体として日本語と比べて制限がきびしいことは事実である。次の例は日本語では問題なく成立するが、

1 寺村秀夫(1992:)では井上和子(1975)の階層性を踏まえ、個々の格がもつ特徴を考察し、「底の名詞」への転出が可能かどうかを明らかにしている。一方、中国語及び中国語と日本語との対照における「内の関係」と「外の関係」について言及したものには【注：古川裕(1989)、山田留里子(1999)、原由起子(1991)、(2002)、楊凱榮(2001)、孫海英(2009)、Wang, Horie, and Pardeshi(2009)、堀江薫、ブラシャント・パルデシ(2009)などがある】。

2 これらの「底の名詞」を元に戻せば、それぞれ次のようになる。

(1') a 山田さんの子供が怪我をした。

b 山田的孩子受伤了。

3 古川裕(1989)を参照。

中国語ではそのままでは成立しにくい。

- (2) a タバコを買ったお釣り (寺村秀夫1992)
 b ?买香烟的找头
 c 买香烟时的找头
 d 买香烟时找回来的零钱

(2a)の日本語に対し、中国語では(2b)のようにそのまま連体修飾節を用いるとやや不自然であり、(2c)のように「時」を入れるかまた、(2d)のように「お釣り」を返す意味を表す動詞を新たに付け加えてはじめて成立する。また同じように、(3a)の連体修飾節をとる日本語の表現に対し、中国語ではそのままでは成立しにくい。

- (3) a 帝王切開した傷跡
 b ?剖腹产的伤疤
 c 剖腹产时的伤疤
 d 剖腹产时留下的伤疤

(3)では日本語と同じ連体修飾節の(3b)はあまり自然ではなく、(3c)のように“時”(時)を入れたり、(3d)のように動詞“留下”(残した)を加えたりしなければならない。帝王切開をすれば傷跡が残るのはICM(理想認知モデル)や百科辞書の知識で説明がつかはずである。にもかかわらず、中国語ではやはり「～したとき」や「～のときに残した」といったような要素を加えないと成立しにくい。言うならば、連体修飾節と「底の名詞」の関係において日本語では動作行為とその結果が容易に結びつくが、中国語では両者を結び付けるためにはICMや百科辞書的な知識だけでは不十分で、何らかの構文的手段を用い、明示しなければならないといえる⁴。日本語の連体修飾節を受ける「底の名詞」が

4 一方、結果補語という枠組みでは中国語では行為と結果が「動詞+結果補語」の形で容易に結びつくが、日本語では場合によっては複合語ではなく、構文的に独立した二つのイベントであることを明示しなければならないことがある。例えば：中国語の“吃饱”という行為と結果を表す「動詞+結果補語」は日本語では複合の形では表せないで、「お腹がいっぱいだ」のように、結果だけを表すか、「食べた結果、お腹がいっぱいになった」のように従属節と主節をもつ複文の形で言語化される。

成立可能かどうかについて、松本善子(2007)では認知に基づくフレーム意味論と語用論的な見地が日本語の連体修飾構造の意味理解に決定的な役割を果たすと指摘し、益岡隆志(2009)では文法論の限界を示したうえで、語用論までを射程にとらえる必要があると提案している。しかし、そうであっても、このような語用論的な要素をいかにして規定するのかという問題が依然として残る。例えば、「?ボクシングをした傷跡」という表現は日本語としてはあまり自然ではないようだが、上述のICMや百科辞書の知識で言えば、ボクシングをしたら、顔に傷跡や怪我の跡が残っても不思議ではない。しかし、日本語ではこのような知識を動員しても連体修飾節を受ける形のままでは依然として成立しにくい。「ボクシングをしたときにできた傷跡」のように表現しないと不自然な表現になる。これらの問題について、個々の事例を検討し、どんな場合に成立し、どんな場合に成立しないのかという日中両言語の違いを考察する必要がある。ただし、本稿の目的はそれを解明することではない。したがって、ここではそれについては深く立ち入らず、日本語ではなぜ連体修飾節が多用されるのか、また中国語では構文的には「底の名詞」に転出できるにもかかわらず、連体修飾節を用いないのはなぜなのかを問題として取り上げ、その理由を探ることにする。

3. 中国語の連体修飾節と非連体修飾節の違い

次のような表現において日本語では連体修飾節しか用いられないが、中国語では「“有”+N+V」(以下これを連動文タイプと呼ぶ)と「“有”+V+“的”+N」(以下これを連体修飾タイプと呼ぶ)の二つの形式を用いることができる。

- (4) a 你有东西吃吗?
 b 你有吃的东西吗?
 c 食べるものがあるか。/食べ物はあるか。
- (5) a 我现在没有时间学习。
 b 我现在没有学习的时间。
 c 今勉強する時間がない。

(4b)における修飾部の動詞と「底の名詞」の意味について言えば、“東西”は“吃”の対象であり、いわば動作と目的の関係であるが、(5b)では“時間”と“学习”は「内の関係」ではなく、“时间”は“学习”のためのものであり、対象ではない。

(4)と(5)に示すように、形式上日本語の連体修飾節に対し、中国語では連動文タイプと連体修飾タイプの両方が対応可能である。構文的に連動文タイプは同一文にある二つの動詞がいずれも主語となる動作主の行為であり、同じ動作主の動作が相前後して二つ続くことから連動文と言われるわけである。例えば(4a)の“你”と(5a)の“我”はそれぞれ“有”と“吃”及び“有”と“学习”の動作主格であるが、連体修飾タイプでは形式の上では「S+有+V+的+N」の形をとり、二つの動詞が文中に存在しながら、構文的に文頭の主語は“有”の動作主ではあるが、後ろに続く動詞“吃”と“学习”の主語としては機能していない。

“吃”と“学习”はそれぞれ「底の名詞」を修飾限定しているだけである。要するに、連動文タイプでは主語が前の動詞の項としてのみならず、後ろの動詞の項としても機能しているが、連体修飾タイプでは主語は前の動詞の項としては機能するが、後ろの動詞の項としては機能していない。両者における構文上の違いは当然、それぞれの表現機能の違いにも反映され、またその名詞の選択にも影響を与えることになる。

「S+“有”+N」構文はもともと所有・存在を表すための構文であり、動詞“有”を用いて、不定(*indefinite*)の名詞を新規導入し、所有・存在を表すものである。当該の連動文タイプはその後ろにさらに動詞を加え、その動作を述べているわけである。しかし、行為を述べるといっても、名詞との意味関係を示すのみであり、動詞による実質的な行為を意味するものではない。それは動詞が常に裸(光杆儿)の形をとり、完了のアスペクト接尾辞“了”をとることができないことから分かる。いわば英語の不定詞構文(*I have no time to study*)に相当するものである⁵。

5 ただ、文末の“了”を加え、“我有时间学习了”とはいえるが、この“了”は動詞“学习”につくアスペクト接尾辞ではなく、“有”の状態変化を表す文末助詞である。したがって“*我有时间学习了一个小时汉语”とは言えない。

連動文タイプでは所有・存在を伝えるのが目的であるため、実際に所有・存在の事物として、具象名詞であろうと、抽象名詞であろうとどちらとも共起が可能である。一方、連体修飾タイプは前述のように、後ろの動詞は主語とは関係を持たず、単に名詞を修飾し、その外延を縮小し、特定していくために用いられる。いわば限定的用法である。連体修飾節によって修飾される名詞は単に新規導入の事物としてだけでなく、同じ集合の中の他のメンバーとの対比の意味が生じる。そのため、一般に用途が広く、修飾限定をうければ、対比の意味が生じやすい名詞“東西”、“時間”、“钱”、“机会”などであれば、問題なく成立するが、用途が決まっていて、修飾限定を受けなくても、なんのためにあるのか分かるような、“椅子”、“飯”といった具象名詞などは成立しにくい。

(6) a 没有椅子坐。

b ?没有坐的椅子。

座る椅子がない。

c 没有你坐的椅子。

あなたの座る椅子がない。

上の例文の(6a)が成立し、(6b)が成立しないのは「椅子」がそもそも「座る」ためのものであり、「座る」という動詞を用いて、椅子を修飾しても意味を成さないからである。言い換えれば、一般の文脈において「座る」という動詞は「椅子」を区別するための指標にはならない。しかし、(6c)のように“你”を加え、「あなたの座る」が修飾語として加わると他の椅子を区別することが可能となり、自然な文になる。次の例文の可否も同じ理由によるものである。

(7) a 没有饭吃。

(食べる) ご飯がない。

b ?没有吃的饭。

c 没有你吃的饭。

あなたの食べるご飯はない。

(7a)は「ご飯がない」ことを表しているが、後ろの動詞“吃”も前

述のように名詞との意味関係（用途として）を示しているものの、実質的な行為を表すものではない。日本語では必ずしも言語化されなくてもよい。(7b)が成立しないのは「ご飯」がもともと食べるためのものであり、動詞「食べる」がご飯を区別する指標として機能しないからである。(7c)のように、“你”を修飾節に加えることによって、新たに区分の意味が発生し、機能する。つまり、ここでは連体修飾成分“你吃的”が修飾される事物に対し、事物の分類の指標となり、結果的にその部分が対比の焦点として機能し、他の集合のメンバーとの対比の意味が前景化される。一方、連動文タイプではこのような対比焦点は持っていない⁶。

連体修飾タイプと連動文タイプにおけるこのような違いは兼語文タイプにも当てはまる。ここでいう兼語文タイプとは形式的には同じく「S + “有” + N + V」の形をとっているが、意味上はNは前の動詞の目的格であると同時に、後ろの動詞の主格である文を指すものである。例えば、

(8) a 我有一个弟弟在美国留学。

b ?我有一个在美国留学的弟弟。

アメリカに留学している弟がいる。

(8)では日本語は連体修飾節を用いているが、中国語ではそれぞれ兼語文タイプと連体修飾タイプが用いられている。(8b)は非文であるというわけではないが、(8a)と比べて、やや不自然である。この(8b)の不自然さも、新規の人物「弟」を“一个”（一人）という不定の形で導入しておきながら、定(definite)と見なされる対比が生じやすい連体修飾節を用いることによるものである。(8b)の“在美国留学的”という連体修飾節はここでは対比の焦点として複数の弟を区別するのに役立ち、弟が複数いるということを含意してしまう。この対比を含意する連体修飾節は(8b)では機能しないが、前提に対する否定文ではその対比の意味ははっきり現われる。なぜならば、否定の表現は多くの場合、前提があり、前提は既知の情報(old information)として認識されるからである。

6 原由起子(1991)では他の観点からも両者の違いについて考察している。

(9) a 我没有弟弟在美国留学。

b 我没有在美国留学的弟弟。

(9)は同じく「アメリカに留学している弟がいない」ことを表しているが、(9a)では“美国留学”は弟の身分や属性を説明するのに役立つものの、ほかに弟がいるかどうかは含意されていないが、(9b)では“美国留学”は連体修飾節であるために、弟を区分するための働きが生じ、否定されるのは「アメリカに留学している」だけであり、弟がいることは否定されていない読みが可能である。すなわち、(9b)では“的”の前の連体修飾節は対比の焦点として機能し、否定の対象となるわけである。

4. “的”の機能

では、中国語における連体修飾タイプと非連体修飾タイプの間には存在する機能の違いは何によって生じるのだろうか。結論から言えば、“的”の限定区分機能によるものである。中国語の“的”はAとBをつなぐための連体修飾標識とされているが、Aに相当する成分は名詞だけでなく、形容詞や動詞なども可能である。この“的”の主な機能は修飾される事物の内包を拡大し、外延を縮小していくことである。木村英樹(2002)は“他买的车”のような連体修飾における“的”は従来の事物の限定から動作限定へと意味拡張していると指摘している。要するに、修飾する成分(名詞、形容詞、動詞など)が修飾される成分の指標となり、事物をさまざまな側面から限定していくことができる。それが一方では事物に対する属性の描写となり、もう一方では事物に対する分類を行うことにつながり、結果的に集合の中のあるメンバーを特定し、他のメンバーから区別するという対比の意味を獲得することになる。多くの例文を提示するまでもないが、次のミニマム・ペアで“的”の有無によって生じる違いは“的”のもつこのような機能を端的に表している。

(10) a 白衬衫

b 白的衬衫

(10)は同じ白いシャツのことを述べているものの、(10a)はほかの色のシャツが特に意識されていないのに対し、(10b)は対比の意味が生

じ、白以外のシャツの存在が含意されている。この“的”による連体修飾は“的”を伴わない連体修飾と比べて、常に集合の中のあるメンバーを他のメンバーから区別するための分類や対比を可能にする素地を持っていることの現われである。ひるがえって日本語の表現形式を見ると、連体修飾標識である「の」は修飾成分が名詞である場合にのみ現われ、形容詞や動詞の場合は現われない。日本語では他のメンバーとの対比があろうとなかろうと、「の」を伴うことなく、すべて同一形式でもって表現するしかない。それが結果的に中国語においてはその表現意図によって、連体修飾タイプか非連体修飾タイプかの使い分けを必要とするが、日本語では動詞による連体修飾節におけるこのような使い分けが必要ではないということにつながる。これも日本語の連体修飾節の多用の一因と考えられるのではないだろうか。

5. 人称代名詞が連体修飾節を受けやすい日本語と受けにくい中国語

5.1 数字から見る日中両言語の違い

前述のように、中国語と比べて日本語では連体修飾節が多く用いられるが、これは実際にWang, Horie and Pardeshi (2009)の日中の小説における連体修飾の量的対比や孫海英(2009)、楊凱榮(2010)の調査からも分かる⁷。これらの研究では「底の名詞」には普通名詞も含まれているが、もし、「底の名詞」を人称代名詞に限定すると、中国語の連体修飾節の割合がさらに減少するはずである。筆者が中日対訳コーパスにおける人称代名詞が「底の名詞」として用いられる連体修飾節を調べた結果、その割合はさらに低いことが分かった。

7 Wang, Horie and Pardeshi (2009)では『キッチン』、『こころ』の日本語の連体修飾節を中国語に訳した時の割合を調べた結果、中国語では半分あるいはそれ以下に減ってしまうのに対し、中国語の小説《阿Q正傳》、《活着》の連体修飾節を日本語に訳した時は概ね忠実に訳されているという面白い結果を得ている。一方、孫海英(2009)ではこのような統計的な数字こそないものの、日本語の連体修飾節が中国語の連体修飾節にならない例について考察を行っている。